

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300860
法人名	有限会社 日本サポートリンク
事業所名	色えんぴつのグループホーム・鈴鹿
所在地 (電話番号)	鈴鹿市下大久保町2289-10 (電話) 059-373-3750
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 18 日(水)

【情報提供票より】(H19年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	(有) 180,000 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	6 名	男性 0 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86.6 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは民家改修型で、建物内部は最小限の改装を行い転用されており、ところどころに段差があり、新築のグループホームに比べると利便性は劣るが、利用者にとっては安らぎと、温もりの感じられる住まいとなっている。定員は6名で、現在入居されている利用者は全員が女性で、静かな落ち着いた日々をおくっている。提携医院も直ぐ近くにあり足腰の不自由な利用者の受診も車椅子に乗ったまま介護士に押しもらい行くことが出来る。散歩は、日々の日課になっており、買い物もほぼ毎日のように希望者は職員と一緒に近くのスーパーへ出かけ食材等を買って楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価の結果を踏まえ、全体会議で検討し改善に取り組み殆どの項目で改善が行われた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が作成し会議で報告をした。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6月に第一回目の運営推進会議が開かれ、グループホームのありかたとか理念について説明をしている。これからは行政担当者や地域の代表者(自治会長、老人会長等)にも広く参加を呼びかけ、ホームの課題について率直な意見を引き出し、協力を得ることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>毎月一回ご家族様へと題して、利用者の健康状態等、詳細に書き込み、出納報告に領収書を添えて送っている。家族の苦情、相談等については重要事項説明書に事業所担当窓口と市、県の行政窓口が記載され契約時に詳しく説明をされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育園の行事とか、自治会の駐車場の草取りには利用者と一緒に参加をしている。当ホームは自治会に加入をしていないので情報も得られず他の行事には参加をしていない。自治会への加入は当ホームより積極的に働きかけることが望まれる。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「いつでも、どこでも、私らしく」を理念としている。	○	開設以来の理念を、今日まで大切にしてきましたが、昨年より地域密着型サービスへと制度変更がされており、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念づくりを、すべての職員と共に作られることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング、会議等で話し合わせ職員間での共有が計られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園の行事とか、自治会の駐車場の草取りには利用者と一緒に参加をしている。当ホームは、自治会に加入しておらず地域の情報が入りにくい状況であり、地域の行事、活動等に参加もしていない。	○	自治会への加入などはホームより積極的に働きかけを行い、地域の一員として行事、地域活動等に参加し、地域の人たちとの交流することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価を実施する意義を理解して、改善に取り組んでいる。昨年度の評価結果も会議で検討し改善してサービスの向上を図っている。自己評価は管理者が行い、会議で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に、一回目の運営推進会議が開かれ、グループホームのあり方、運営理念について説明を行った。	○	今後の会議を、より効果を高めるためにも参加者を、行政担当者、自治会関係者にも広く参加をよびかけ、ホームの課題等について説明し、率直な意見を引き出しサービスの向上に生かされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回介護相談員を受け入れているが、市の担当者との話し合いは積極的にしていない。	○	市の窓口担当者と、気軽に話し合える雰囲気づくりをされることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ご家族様へと題して、生活、健康、食事、排泄等の状況を細かく記入し、今後の予定なども書き金銭出納報告書に領収書も添付して送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情担当窓口、市の関係窓口、県福祉部窓口の電話番号が書かれており、契約時に本人及び家族に説明をしている。玄関には苦情受付箱も置かれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内の異動を出来るだけ減らし、離職者も最小限に抑制している。新しい職員が入ってきた場合、利用者にはきちんと紹介をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修会には、出来るだけ参加をするようにしているが職員のそれぞれ段階に応じた研修計画はなく、研修にもあまり参加をしていない。	○	グループホーム連絡協議会の年間研修計画の予定も把握されており、職員の研修計画に生かされることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会では、交流をしているがそれ以上のことはしていない。	○	近隣グループホームとの見学会や、勉強会などを行いサービスの質の向上に向け取り組まれることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急激な環境の変化に馴染めず、不安がられる利用者には家族と相談の上、家族の訪問を多くしたり、時々帰宅をしたりして徐々に馴染んでいくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ利用者と一緒にいる時間をつくり、楽しかったこと、悲しかったことを話しあいながら信頼関係を深めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聞き、希望や、意向の把握に努めている。家族の面会時には、積極的に声掛けを行い利用者の思いや、希望などを聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンス時に、利用者の状態について各職員で話し合い、意見を出し合って介護計画の作成に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	何ら変化のない利用者でも、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。急激な変化が見られる利用者には、各職員と話し合って現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や、家族の要望で通院等の支援を行っている。又、空き部屋がある場合は、ショートステイや1日体験入居を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、当ホームの契約医療機関を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、主治医、職員と相談をしながら本人の意思を尊重できるよう、都度話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、先輩を敬う気持ちを持っておりプライドを損ねるような言葉掛けはしていない。又、個人情報の取り扱いにも十分に注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や、散歩など、一人ひとりの希望や、意見を中心に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話から、利用者の食べたいものを聞き出し献立に生かしている。食事の準備、配膳、後片付けなどを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には、毎日でも入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や、本人の希望を聞き、食事準備や買い物、草取りなどを、職員と一緒にやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、日課で行っている。買い物や各地の催し物がある場合は、利用者の希望を聞き戸外に出かけられるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵は掛けずに過ごしている。利用者が出て行く場合は職員が後からついていくようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時には、介護相談員を通じて地域の人へ応援をお願いをしている。避難訓練等は実施していない。	○	緊急時の対応は、職員も不安に思っており、出来れば年に2回ぐらいは、避難訓練等を行うことが望まれる。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立を書類に記録し、利用者ごとの残食量もチェック表に記載して、おおよその栄養摂取量を把握されているが、水分の摂取量が確認されていない。	○	おおよその栄養摂取量は把握されているが出来れば、定期的に専門家の観点から献立をチェックしてもらったり、また、一日を通じた水分量を把握することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	異臭や、不快音も感じず、季節の花が飾られており一日を居心地よく過ごせた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、タンスなど使い慣れたものを持ち込み、本人が安心して暮らせるようにされていた。		